

太陽の子

2016年 7月 No.156

夏の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



風の家では、普段会わない人たちとも一緒に過ごします。夕食前のリラックスしたひと時です。日中あった楽しいことを話しているのかな？今日も笑顔があふれ楽しいお泊まりの始まりです。(風の家)

支える医療

株式会社日立製作所 日立総合病院

副院長 菊地 正広

長年小児科医として急性期病院で日常診療をしていく中で、先天性の病気をもつ子どもたちや、命は助かったが後遺症が残ってしまった子どもたちも多く診てきました。医療機器や制度の進歩に伴い、その後子どもたちの在宅医療にも携わることになり、試行錯誤しながらもなんとかがんばって来ました。考えてみれば、昔の医学教育の中では病気の治療について学ぶことはあっても、患者を「支える」ということに関して学ぶことはほとんどありませんでした。そんな中でなんとかやってこられたのは、病気の子どもたちとその家族、さらにはさまざまな職種の人たちにいるいろいろなことを教えてもらったおかげだと思っています。

太陽の家とはこれまでも間接的にはありますが、医療の立場からその都度関わってきました。今回、小又理事長さんの尽力により日立総合病院と太陽の家の間に正式に相互協力に関する協定が締結され、医療と福祉の連携がいっそう強化されるようになりました。私人としても、さつそく昨年のデイズニーの旅に同行させていただき、利用者家族、守る会、職員の皆さんの献身的な努力も目の当たりにし、障害児医療への思いを新たに感じています。

現在、日本の社会保障の最大の問題は、少子・高齢化だといわれています。日本は世界に先駆けて超高齢化社会が進み、高齢者に対しては医療・福祉制度もそれなりに進んできました。一方、子どもたちの福祉においては医療ケアを必要とする子どもたちの急激な増加に伴い、地域社会での「支える医療」の比重が大きくなってきているにもかかわらず、それに対する社会的認識と体制は十分であるとはいえません。一般のほとんどの人は肢体不自由な子どもに限らず、病気をもっている子どもや重症児などには一度も出会うことなく一生を過ごしているのが現状です。病気をもった子どもたちが家に閉じ籠るのではなく、社会の中で生きていくためには自宅以外に居場所を作る、友達を作ることが必要です。子どもたちが地域社会に出ることができないと、家族は閉鎖的になり疲弊していきます。現代の医療には「治す」だけでなく「支える」という役割も負わされています。障害をもちながらも、安定して前向きに心豊かに生きていける人生、広がりのある生活を送ることができるよう、子どもたちと家族を福祉の面からだけでなく、医療の面からも支えていけるよう協力していきたいと思っています。

新入職員紹介

一日一回は

みんなで笑おう

看護師 長谷川 祐子



今年四月から太陽の家で仕事をさせていただいています、長谷川祐子です。以前働いていた病院とはまた違った分野での仕事のため戸惑いや不安もありましたが、毎日楽しく仕事をさせていただいています。太陽の家の理念にある「一日一回はみんなで笑おう」の通り、太陽の家を利用していらっしゃる方、職員もみんなが明るく笑顔でいきいきと一日を過ごしている現場を見た時、キラキラと輝き、別世界に来たかのような感動をおぼえました。それが太陽の家で働きたい、と思った動機です。自分で言うのも何ですが、性格は明るい方だと思っています。楽しい事、おもしろい事も大好きです。仕事は楽しくやる、疲

れた時こそ笑顔で！を常に心がけながら今までやってきました。そんな私が、どこまで皆さんを笑顔にすることができるとかと思つた時に、やっぱり私自身が楽しく笑顔でいることができれば、自然と皆さんに伝わり、笑顔になってくれるのではないかと考えました。そのためには早く仕事を覚え、皆さんに「長谷川？ ああ、あのオモシロイ人ね」と覚えてもらえるように、試行錯誤しながら頑張つていきます。どうぞよろしくお願ひします。

よろしく

お願ひします

作業療法士 浅井 梨枝子



四月から太陽の家生活介護の職員となりました。作業療法士として働き始めて五年、以前

は精神科の病院で働いていました。リハビリの仕事は作業が中心で体を動かすようなりハビリはほとんどありませんでした。これから、太陽の家で働いていく中で必要とされるものは、今まで経験してきたものと違い、最初から勉強をし直す必要があるなど感じています。そんなゼロからのスタートで、不安に思いながら始まつた四月でしたが、気づいたら一週間、二週間、あっという間に一ヶ月が過ぎ、あたふたした毎日ですが、登園してくる皆さんに会えることがとても楽しみとなつていきます。そして、慣れない不安な日々の中で、利用者さんの元気な声や笑顔にとても励まされていきます。

太陽の家の職員として、まだまだ見習い状態で、作業療法士としての仕事をするには時間がかかりそうな気がしますが、仕事をしていく中で多くのことを学び、他施設や病院のリハビリの先生方と繋がりを持つことで、色々な知識を得て、作業療法士としての力を発揮していけるようになりたいと思つています。

色々と未熟な私ですが、どうぞよろしくお願ひします。

職員一

出 会 い

風の家 支援員 鈴木 美保

太陽の家に勤めて四年目に入りました。四月の人事異動で、太陽の家から風の家へ異動になり、今までは違う様々な時間形態で働いています。太陽の家に勤める前は、デスクワークを中心に各種講座の企画・運営・会議室の貸し出しなどをしていました。子供からお年寄り、たくさんの人との出会いがありました。縁あって太陽の家を見学した時、もつと知りたい、もつと係りたいという思いと、自分で大丈夫だろうか？勤まるだろうか？という思いがよぎりましたが、何度か通い、利用者さんの笑顔や優しさに触れるうちに、もつと知りたいという気持ちが強くなり採用試験を受け今現在に至っています。

生活介護の太陽の家では、朝自宅に利用者さんを迎えに行き、体調管理に気を付け、園外活動やみんなが楽しめるようなカリキュラムをやり楽しく過ごし、利用者さんの新たな発見や可能性の多さに喜びを感じ仕事をさせていた、だきました。また、利用者さんや保護者の方にはいろいろと教えていただき成長させていた、だきました。登園している利用者さんや保護者の方々の出合いのなかで、以前の仕事でお世話になった方や、親戚が知り合いだったりや懐かしい出合いがあり、どこかで繋がっていて世間つて狭いんだなあと感じたり、繋がっているということ嬉しく思えました。

そんなある日異動の話があり、この四月から風の家での勤務が始まりました。風の家はお泊り訓練の施設なので、今までのようなどこかに行くとか何かをするということはありませんが、利用者さんが安心して泊まれ、家にいる時のようにリラックスして過ごせるように頑張りたいと思います。また、風の家は生活介護を利用していない方もお泊りに来るので、新たな出合いを楽しみにしています。人と出合いによって、嬉しいこと、楽しいこと、苦しいこと、悲しいことなど様々なことがありますが、どんな出合いも大切にして過ごしていきたいと思ひます。

日立守る会だより

日立重症心身障害児(者)を守る会

平成28年度を迎えて

藤枝 利彰

日立守る会の総会が4月16日(土)に日立市太陽の家において日立市社会福祉協議会の福地会長及びNPO法人日立太陽の家の小又理事長のご臨席を頂き、また、会員19名の参加を頂き平成28年度の総会を無事終了出来ましたこと、御礼申し上げます。今年度は役員改選の年でしたが総会にて平成28年4月より平成30年3月までの2ヶ年の再任が承認され役員一同新たな気持ちで日立守る会の運営に努めたいと思いますので会員皆様のご協力をお願い致します。

平成28年度の主な事業計画
 ① 日立守る会50周年記念式典を7月9日(土)に会場は日立市太陽の家に於いて行いますので会員の方には是非参加をお願い致します。

式典には来賓として日立市長をはじめ茨城県保健福

祉部障害福祉課、日立市社会福祉協議会会長、全国重症心身障害児(者)を守る会本部等よりの出席を予定。また、午後の祝賀会にはミニピッチコンサートの開催を予定しております。

② 全国重症心身障害児(者)を守る会関東・甲信越ブロック大会(山梨県)が9月24・25日開催(平成29年9月には茨城県で開催)

・県守る会主催の交流会や研修会

・日立市福祉団体連絡協議会(7団体)の交流会11月・研修会(講演会)平成29年2月予定(創立50周年・平成29年11月11日)

③ 日立ふれあい運動会・日立市太陽の家奉仕作業・ひかりの郷交流会・クリスマス会等

以上主な事業計画を予定しておりますので会員の方の参加

をお願い致します。

皆様ご存知の太陽の家・しいのき学園・ひまわり学園・母子養育ホームの施設の老朽化により現在鳩が丘障害者福祉施設再整備の計画が進められ4施設が一つになり、皆様

最近気付いたこと

浅川 秀吾

「あのー、すみません
が……」

生まれつき脳性マヒで、全面介助を必要とする私がいづもクチにする言葉です。

生身の私をご存じでない方には、右の言葉遣い、遠慮がちな性格だと直感された方もおいででしょう。

確かに私は、障害に伴う体の強い硬直のため、介護をして下さる方ほとんどに対して負い目を感じており、習慣的に出てきてしまう言葉なので

。ところが習慣とは怖いもので、そんな自分の言葉に於いて他人と接し続けたら、更に生きづらくなるだろうナと最近気付いたのです。キツカケは、新聞の人生相談を読んでいた時です。その相談者は、上司から頼まれて精神障害の社員の面倒を見ているが、そ

が利用しやすい施設に生まれ変わって平成30年度には完成される予定になっております。最後に平成28年度も会員皆様の協力を頂き日立守る会の発展に努めたいと思います。

の社員に感情の起伏があるの
で付き合いにくい、とこぼすの
です。

これに対する上野千鶴子さんの答えは、要約すると「あなたに上司が障害者としてその人を紹介していなかったら、それほど負担はなかったかも」というものでした。更に続けて「できれば心を開いて普通に接してほしい」そして「その人に気構えすぎで感情を閉ざさないで」とも言いました。話し手が感情を閉ざしてしまふと言葉の情緒的な側面が失われて、相手に真意が伝わりにくくなるのだそうです。

この記事を読んで私は人と接する時、心を開いて自然な笑顔が出せたらと思つたのです。

太陽の迎えを待つ

沼田 洋子

忘れ物はないかな? お気に入りのカバンに荷物を用意しました。登園の日だね。身支度を整え、車イスに乗ります。この瞬間に今日の機嫌が表れます。「ニヤッ」とすれば気分はノリノリのサインです。「おはようございます」。ここでもまた「ニヤッ」が出ます。出発です。こんな朝の始まりの時は「沢山の笑顔が見られました」と聞かされます。週二回のお迎え待っています。

エプロン奉仕の皆さんが毎月のボランティア活動に加え、座位保持装置のカバーを作ってくれました。まるで新品のようです。





新たに農業にチャレンジしています。とれたての野菜をお届けできるよう頑張ります。(しいの木学園)



しいの木学園にオーダーした移動式ロッカーを使って食事中。おいしい笑顔集まれ～！(居宅介護事業所)



外に出て自然観察ゲームをしました。キレイなつつじの前で記念に一枚。お花を見ると自然と笑顔がこぼれますね！(太陽の家)



福祉ミュージカル公演～ほほえみのかけ橋～を観てきました。初めてのミュージカルでわくわくウキウキ！とても楽しい時間を過ごせました！(ひまわり学園)

◎平成二十八年年度

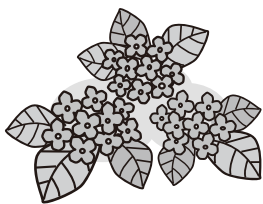
NPO法人日立太陽の家
利用者総数 二百七十五名

男性 百六十一名
女性 百十四名

お知らせ

NPO法人日立太陽の家職員
新採用者、施設内移動者名

- ・太陽の家
- 黒田 如恵 介護福祉士
- 長谷川 祐子 看護師
- 浅井 梨枝子 作業療法士
- ・ひまわり学園
- 阿部 結花 介護福祉士
- 志摩 英子 支援員
- ・しいの木学園
- 小平 加代 支援員
- ・太陽の家居宅介護事業所
- 福田 法子 支援員
- ・風の家
- 鈴木 美保 支援員



ご寄付ありがとうございました

◎次の方から寄付を頂きました(敬称略)

三月～五月
鈴木貫一 佐藤芳昭 赤津浩
親切会関東支部長 岡田政紀
澤島供弘、康 高木タカ子
NPO法人日立太陽の家支える会 有馬郷子 日立市太陽の家ボランティアグループ

○次の方から物品の寄贈がありました(敬称略)

三月～五月
椎名将光 有馬郷子
佐々木 莊六 大森健二
村田理恵 鈴木一江
坂内詩織 真山理華



編集後記

七月五日で、日立市太陽の家は満四十六年となりました。先人達の思いを積み重ねた四十六年、改めて心に留めようと思います。(K記)